

まちの話題

10月17日



秋のフリーマーケット
秋から冬物の衣服やぬいぐるみ、おもちゃ、骨とう品などのお店が軒を連ねていました。



富士見駅開駅100周年記念式典

この日は曇1つないない秋晴れで、町内で各種イベントが開催されました。

午前9時から役場前で古タイヤ、バッテリー、家庭用焼却炉、老朽消火器に回収の行い、タイヤ313本、バッテリー828kg、焼却炉7基、消火器64本を回収しました。

午前10時からはコミュニティ・プラザお祭り広場周辺で秋のフリーマーケットが開催され、沢山のお店と人で賑わっていました。

また、富士見駅前には開駅100周年記念イベントが午前10時から駅前駐車場で行われました。富士見駅は明治37年12月21日に中央東線で県下に初めて開業した歴史ある駅で今のようにトラック輸送が普及していなかった昔は、富士見の野菜や木材、氷等が富士見駅から関東、関西まで運ばれたこともありました。また開通当時の自動車に対する関心は大変なもので、弁当持参で車を眺めに行くことが流行ったそうです。時代が変遷し駅の役割も変わってきましたが、駅のありがたさを改めて感じました。イベント会場ではミニSLの体験乗車や豚汁、焼き鳥の無料サービス等に大勢の方が列を連ねていました。



ふるさとのみなさんへ 東都高原富士見会だより



今田さつき
茨城県
(上葛木出身)

私たちが家族が富士見町を離れ、茨城のこの地に移ってから30年近い月日が流れました。サークル活動やボランティア活動を通じて、知り合いの方も大勢できましたし、ここでの生活にもすっかり慣れたというのに、私はいまだこの地に「終の住家」を持つ気持ちにはなれません。

16年前急逝した主人のお墓が富士見にあることもあって、毎年お盆には富士見に帰りまして、何や彼と用事もあって、年3〜4回は富士見に参ります。その度に富士見の自然の美しさに感動し、居心地のよさに滞在も、もう一日、もう一日と伸びてしまいます。私のいつか富士見で暮らしたいという想いは募るばかりです。何年前か、次男が言ったこ

とがあります。「富士見は日本中で一番いい所だよ」と。そして私がお墓をこちらに移そうかと相談すると、息子たち二人が揃って、「お墓がなくなれば、富士見に行く事もなくならないでしょう？それならやっぱりお墓は富士見でないと」と言うのです。息子たちにとっても富士見は故郷なのだと思われ、嬉しく思いました。

いつか富士見で暮らしたいという夢は、実現できないかも知れませんが、今はボランティア活動やサークル活動の中でいろいろな人達と接し、話したり、勉強したりしながら、ささやかな楽しみを見つけて、明るく元気に生きて行きたいと願っています。